

第 2 章

手あれの原因いろいろ ～皮膚にダメージを 与えるもの～



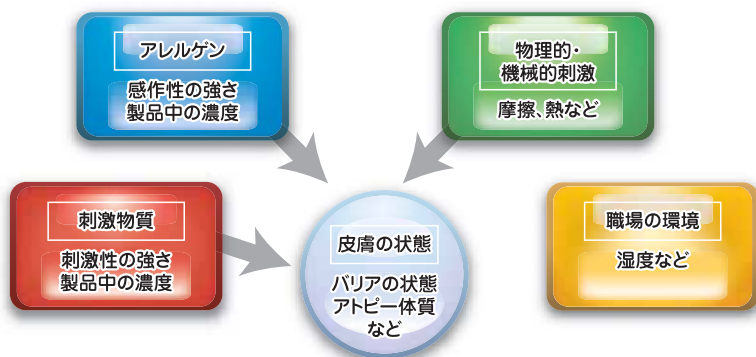
水仕事、シャンプー、パーマ液、染毛剤…etc.
理・美容師のお仕事のなかには、
手あれをおこす原因がいろいろあります。
それぞれ、どのようなタイプの
手あれをおこしやすいのか、
製品中に含まれる
手あれをおこしうる成分は何か、
解説します。

手あれの状態に影響を 与えるもの

手あれの原因としては、皮膚にダメージを与える、化学物質（刺激物質、アレルゲン）、物理的・機械的刺激（摩擦や熱など）があげられます。

ほかに、皮膚の状態や職場の環境が、手あれの状態に影響を与えます。

- 皮膚にダメージを与えるもの：この章で解説します。
- 皮膚の状態：同じダメージを皮膚に受けても、個人個人で手あれのおこり方は異なります。角質層のバリアが弱い場合や、アトピーなどの体質がある場合は、手あれはおこりやすくなります。
- 職場の環境：湿度などが影響します。湿度が低いと、皮膚も乾燥して、手あれがおこりやすくなります。



◆手あれの原因① 水仕事

水仕事が、手あれをおこすことはよく知られています。

シャンプーの洗浄剤や、摩擦などの刺激が関与することが大きいですが、水(お湯)そのものも、手あれの原因になります。

水は、皮膚のバリアである角質細胞に浸透して、細胞を膨脹させます。その後、水が蒸発すると細胞はしぼみます。このくり返しによって、皮膚で炎症をおこす物質が放出され、炎症がおこった結果、皮膚のバリアがこわれてしまうといわれています。



MEMO

主婦に多い手あれ…進行性指掌角皮症(しんこうせいししょうかくひしょう)ってどんな病気？

これは、おもに指の腹に角化がおこるタイプの手あれで、水仕事の多い主婦や、指先をよく使う職業の人にみられます。慢性型の刺激性接触皮膚炎(15ページ参照)とみなされることもあります。おもに利き手の第1、2、3指の腹からはじまり、手のひらに広がることもあります。冬に悪化しやすく、かゆみがないのが特徴です。もちろん、理・美容師でも、このようなタイプの手あれがみられることがあります。

◆手あれの原因② シャンプー

シャンプーは、頭皮と髪のごみを落とすものですので、頻回に扱っていると、皮膚にとって必要な角質の保湿成分も落ちてしまいます。

シャンプーによる手あれは、洗浄剤として用いられる界面活性剤による、慢性型の刺激性接触皮膚炎がほとんどですが、アレルギー性接触皮膚炎をおこす物質もいくつか報告されています。

シャンプーによる 皮膚炎

刺激性接触皮膚炎が主



シャンプーに含まれる おもな刺激物質

・洗浄剤(界面活性剤)

シャンプーに含まれる おもなアレルギー

・コカミドプロピルベタイン(界面活性剤)
・ケーソンCG(防腐剤)
など

※アレルギーに関しては、明らかにされていないものが多いため、これらを含まない製品のほうが、必ずしもよいとは限りません。

* どんな物質？

● コカミドプロピルベタイン

天然成分を原料とした両性界面活性剤で、シャンプーなどに広く使用されています。一般には、アレルギー性接触皮膚炎をおこす頻度は少ないですが、皮膚のバリア機能が低下している理・美容師の場合、アレルギーをおこしやすい可能性があります。

● ケーソンCG

殺菌防腐剤として使用される成分です。欧州ではアレルギー性接触皮膚炎をおこしやすいことが報告されているため、外国製の製品を使用する場合などに注意が必要です。

日本では、シャンプー・リンスなどの洗い流す製品に限って、少量の使用が認められている成分です。成分表示には、「メチルクロロイソチアゾリノン、メチルイソチアゾリノン」と記載されています。



MEMO

手を洗いすぎている可能性がある？

お仕事で、手に付着した薬液などを落とすために、念入りに手を洗ったり、石けんを使いすぎたりしていませんか？ 石けんも界面活性剤ですので、頻回に使用すると手あれの原因になります。手あれの原因物質を洗い流すことは大切ですが、水によるすすぎだけで十分であることも多いのです。日常生活でも、必要以上に手を洗っていないか、強い石けんを使っていないか、手洗いの習慣を一度見直してみてください。手を洗う回数をなるべく少なくすることも、手あれを予防するためには重要です。手を洗った後は、保湿剤でケアすることもお忘れなく…。

◆手あれの原因③ パーマ液

パーマ液には、刺激の強い物質が含まれています。

パーマ液による皮膚炎の多くは、チオグリコール酸アンモニウムなどの還元剤や、第1剤に配合されるアルカリ剤による刺激性接触皮膚炎ですが、アレルゲンとして注意すべき成分もあります。

パーマ液による 皮膚炎

刺激性接触皮膚炎が主



パーマ液に含まれる おもな刺激物質

- ・チオグリコール酸類(還元剤)
- ・アルカリ剤(アンモニア、モノエタノールアミンなど)
- ・過酸化水素(酸化剤)

パーマ液に含まれる おもなアレルゲン

- ・チオグリコール酸アンモニウム(還元剤)
- ・システアミン塩酸塩(還元剤)
- など

※アレルゲンに関しては、明らかにされていないものが多いため、これがすべてではありません。

* どんな物質？

● チオグリコール酸アンモニウム

パーマ第1剤の還元剤として使用される代表的な成分です。刺激が強い物質であるため、おもに刺激性接触皮膚炎をおこしますが、アレルギー性接触皮膚炎をおこす可能性もあります。

● 過酸化水素

酸化剤、ブリーチに使用される刺激の強い物質で、刺激性接触皮膚炎をおこします。低濃度の水溶液は、家庭用の消毒剤としての用途も知られています。アレルギー性接触皮膚炎をおこす頻度は少ないようです。

● システアミン塩酸塩

化粧品登録されているカーリング剤の還元剤として使用される成分です。毛髪へのダメージが少ないため、最近よく使用されていますが、アレルギー性接触皮膚炎をおこしやすい可能性が指摘されており、今後注意が必要です。

MEMO

皮膚にやさしいといわれている製品でも、アレルギーには注意が必要？

アレルギー性接触皮膚炎は、刺激性接触皮膚炎と違って、皮膚にやさしいといわれている製品や、思いがけないものが原因でおこることがあります。化粧品の規制緩和に伴って、今後も新しい成分が次々として入ってくることが予想されますが、化学物質の持つ感受性（アレルギーのおこしやすさ）については、十分に解明されていないものも多く存在します。良質の製品が開発され、理・美容師の手あがが少なくなっていくことが期待される一方で、新しい化学物質による皮膚炎に注意していく必要があります。



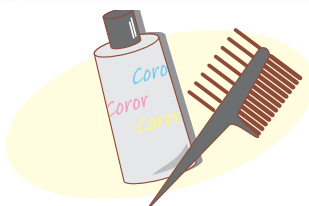
◆手あれの原因④ 染毛剤

染毛剤のうち、もっとも多く使用されている酸化染毛剤には、非常にアレルギーをおこしやすい物質が含まれています。

染毛剤は、刺激性接触皮膚炎もおこしますが、アレルギー性接触皮膚炎の原因として重要です。まれに、接触じんましんをおこす可能性もあります。

染毛剤による 皮膚炎

アレルギー性接触皮膚炎が主



染毛剤に含まれる おもな刺激物質

- ・過酸化水素(酸化剤)
- ・アルカリ剤
- ・過硫酸アンモニウム(ブリーチの酸化促進剤)

染毛剤に含まれる おもなアレルギー

- ・パラフェニレンジアミン
- ・オルトフェニレンジアミン
- ・パラアミノフェノール
- ・オルトアミノフェノール
- ・オルトニトロパラフェニレンジアミン
- ・過硫酸アンモニウム など
- ・パラトルエンジアミン
- ・メタフェニレンジアミン
- ・メタアミノフェノール

* どんな物質？

● パラフェニレンジアミン

酸化染毛剤に使用される代表的な酸化染料です。非常に感作性が強い(アレルギーをおこせる力が強い)物質で、理・美容師のアレルギー性接触皮膚炎の代表的な原因です(51ページ参照)。パラフェニレンジアミンにアレルギーがある方は、ほかのジアミン系染料やアミノフェノール類などの染毛剤成分にも、アレルギー反応をおこすことがありますので、注意が必要です。

● その他のおもな染料

パラフェニレンジアミンが黒色から暗茶褐色に近い色を出すのに対して、パルトルエンジアミンやパラアミノフェノールは、より明るい褐色などの色合いを出すために使用されます。これらの物質は、染毛剤成分のなかでは、パラフェニレンジアミンに次いで感作性が強いといわれています。

● 過硫酸アンモニウム

ブリーチの酸化促進剤として使用される、刺激の強い物質です。ブリーチやライトナーの使用機会が少なければ、この物質が手あれの原因になることは少ないかと思いますが、刺激物質としてもアレルゲンとしても重要です。海外では、この物質によるアレルギー性接触皮膚炎や、接触じんましの事例が報告されています。

MEMO

植物性染毛剤のヘナは、かぶれにくい？

かぶれにくいといわれるヘナですが、上述のパラフェニレンジアミンが混入されている製品がありますので、注意が必要です。ヘナそのものが、アレルギー性接触皮膚炎の原因になることもまれにありますが、ヘナでかぶれたという事例の多くは、混入されたパラフェニレンジアミンによるものです。



◆手あれの原因⑤ その他の製品

その他、お仕事のなかで手あれの原因になりうるものとしては、

- ・トリートメント類
- ・整髪料
- ・ヘアトニック
- ・シェービング剤(理容師の場合)
- ・グローブ(ゴム)
- ・金属製品(はさみやピンなど)
- ・洗いもので使用する洗剤・消毒剤

などがあげられます。

整髪料、シェービング剤は、理容師において、アレルギー性接触皮膚炎の原因として重要です(56ページ参照)。ゴム、金属製品の中にもアレルギーが存在します。

その他のおもな 刺激物質	・洗剤類 ・消毒剤 など
その他のおもな アレルギー	・金属(ニッケル、コバルトなど) ・ゴム(ラテックス、加硫促進剤など) ・香料 など

※アレルギーに関しては、明らかにされていないものが多いため、これがすべてではありません。

* どんな物質？

● ニッケル

金属アレルギーの原因として重要です。アクセサリー・時計類、硬貨(とくに50円、100円)、ステンレス製品など、日常生活のなかにもニッケルを含むものが多く存在します。理・美容師の手あれの原因となる頻度は少ないですが、欧米では、理・美容師のアレルギーとして重視されています。

● ゴム

ゴムでアレルギー性接触皮膚炎をおこすことがあります。ゴム製品の製造過程で用いられる添加剤(加硫促進剤や酸化防止剤など)がアレルギーとなります。また、天然ゴムのラテックスは、接触じんましの原因として重要です(19ページ参照)。理・美容師用のグローブで、ラテックス製のものがありますので、注意が必要です。

● 香料

種々の理・美容製品に含まれ、アレルギー性接触皮膚炎をおこすことがあります。日常生活のなかでは、化粧品や香水のほかに、食品などにも香料のアレルギーが含まれるものがあります。

◆手あれの原因⑥

物理的・機械的刺激

ほかにも、手あれをおこしうる種々の刺激があります。お仕事中に手に受ける、ドライヤーの熱風などの物理的刺激や、道具の摩擦、髪の毛の刺激などの機械的刺激があげられます。

●ドライヤーの熱風

熱風により、皮膚のバリアである角質層の脱水がひきおこされます。その結果、角質細胞がはがれたり、ひびわれを生じたりしやすくなります。

●道具の摩擦

はさみ、ドライヤー、シャワー、各種製品の取り扱い、タオルドライ、グローブの着用などの際に摩擦を生じます。弱い刺激ですが、くり返し加わることで、手あれの状態に影響する可能性があります。はさみをよく使う方では、摩擦を受ける部位の指の角質が厚くなり、“たこ”ができることがあります。

●髪の毛

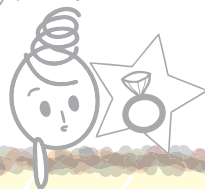
髪の毛の刺激で、角質層に細かいキズがつきます。短くカットされた尖った毛髪片が皮膚に刺入し、「毛巣洞」という病変ができることがまれにあります(110ページ参照)。

MEMO

金属アレルギーがあると、夏に手あれが悪化する？

金属アレルギーの原因として重要なニッケルは、汗によって溶け出しやすくなるため、アレルギーの症状は、汗をかく夏に悪化することが知られています。理・美容師の手あれは、冬に悪化することがほとんどですが、夏に悪化するという方は、一度、金属のパッチテストを受けることをおすすめします。皮膚科でご相談ください。

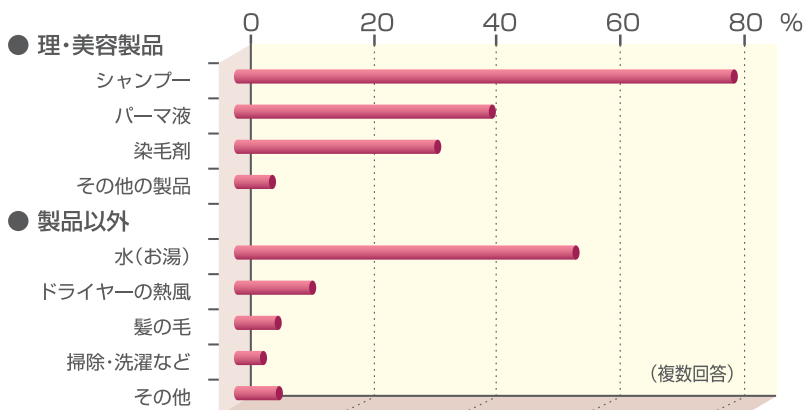
Metallic allergy



手あれの原因で多いものは？

手あれの原因としてあげられたのは、製品別では、シャンプー、パーマ液、染毛剤の順に多く、製品以外では、水(お湯)という回答が過半数を占めました。美容師では、理容師に比べて、パーマ液、染毛剤の回答がより多くなります(56ページ参照)。ただし、アレルギー性接触皮膚炎の場合は、自分では原因がわからないことも多いため、パッチテストでの確認が必要です(次章参照)。

Q. (手があれたことがある方へ) 手あれの原因は何でしたか？



宮城県の理・美容師のアンケート調査より(n=647)